

地域創生 & 災害復興に貢献するデザインを通じて
東北からアジアにつながるドアを拓く
デザイナーズ・イン・レジデンス
【 DOOR to ASIA 】 を開催

独立行政法人 国際交流基金（The Japan Foundation）は、2015 年 12 月 1 日（火）～12 日（土）までの 12 日間、ASEAN 諸国で活躍する若手デザイナーと日本人デザイナー 9 名を東日本大震災で被災した三陸地方・陸前高田周辺エリアに招き、「DOOR to ASIA」と題したデザイナーズ・イン・レジデンスのプログラムを初めて実施しました。

今回インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシアのデザイナー 8 名と日本人デザイナー 1 名が 12 日間にわたる共同生活（レジデンス生活）に参加。三陸地方・陸前高田周辺エリアの受入企業として「アンカーコーヒー」「石渡商店」「八木澤商店」「Three Peaks」の 4 事業者が受入を行い、デザイナーとの協働を行いました。

9 名のデザイナーは、各地元事業者の店舗や工場などでの就労体験や、コミュニケーションを通して得られた様々な課題について議論を重ね、“各社の商品を自国で販売するとしたら”という仮説を基に「企業ロゴ」や「ウェブサイト」、「パッケージデザイン」などのコミュニケーションデザインを制作・提案。その結果、アジア各国の共通課題でもある「自然災害からの復興」を背景にした「地域に貢献するデザイン」と「デザイナーの役割」の可能性を見出すことができました。

また事業者からは、デザインを通じた国際交流の中で東北の新たな価値を見出すことができ、今後のアジア市場を見据えた展開や、国内外問わず東北に目を向けてもらうヒントが得られたと高い評価を頂きました。

プログラム終了後、さっそくアジア展開に向けて出張を実施する事業者も出るなど、デザイナーと事業者の間に深い関係性ができることで、中長期的に国を越えて多くのコトが生まれていくきっかけの場となりました。

【「DOOR to ASIA」実施概要】

日程	2015 年 12 月 1 日（火）～12 日（土）
場所	岩手県陸前高田市・大船渡市、宮城県気仙沼市・石巻市（+東京都内）
デザイナー	Adityayoga（インドネシア）、Zinnia Nizar-Sompie（インドネシア）、Jonathan Yuen（シンガポール）、Thirada Raungpaka（タイ）、Mali Chaturachinda（タイ）、Pom Jitpratuk（タイ）、Dan Matutina（フィリピン）、Driv Loo（マレーシア）、樽見星爾（日本）
受入協力	【宮城県気仙沼市】（株）石渡商店（ふかひれの石渡商店） （株）オノデラコーポレーション（アンカーコーヒー） 【岩手県陸前高田市】（株）八木澤商店（醤油） 【岩手県大船渡市・陸前高田市】Three Peaks（ワイナリー、りんご園）
滞在拠点	【岩手県陸前高田市】箱根山テラス

【各事業者のコミュニケーションデザイン案】

●アンカーコーヒー（コーヒーショップ／宮城県気仙沼市）

デザイナー：Dan Matutina（フィリピン）、Zinnia Nizar-Sompie（インドネシア）

<デザイン課題>

「いつでも地元の人が集まる」コーヒーショップを目指す同店からの課題は、「ショップロゴのブラッシュアップ」と「外国人（インドネシア人）への情報発信」。

<課題への取り組み>

「Happy Coffee Life」、「Pride of Kesennuma」、「Home」などのキーワードをもとに、“Passion（情熱）”の赤と“Sea（海）”の青を使ったロゴ、ギフトバッグ、港をキーワードにした海外でのポップアップショップ、インドネシア人向けフリーペーパーなどでブランドコミュニケーションを多角的に提案。



●石渡商店（フカヒレ・オイスターソース等の水産加工／宮城県気仙沼市）

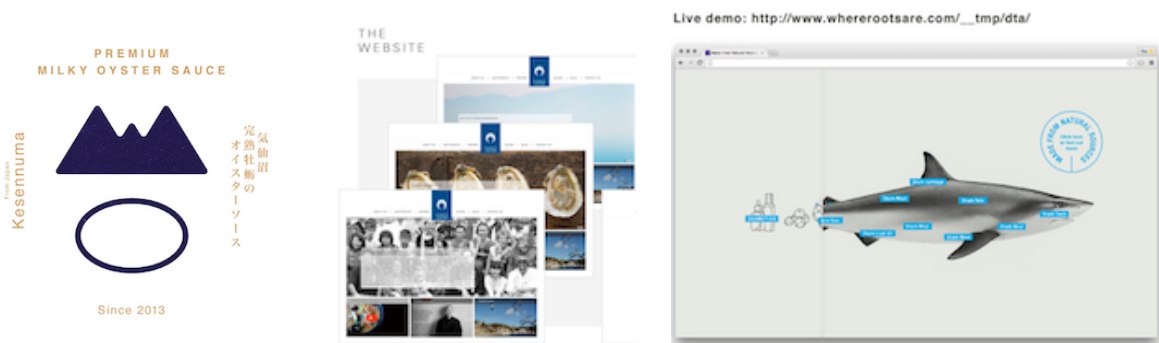
デザイナー：Adityayoga（インドネシア）、Jonathan Yuen（シンガポール）

<デザイン課題>

日本を代表するふかひれの老舗からの課題は、「オイスターソースのブランディング及び、パッケージデザインの提案」と「海外での広報手段（デザインブランディング）の提案」。

<課題への取り組み>

気仙沼の地形や牡蠣の形などから想起したオイスターソースのロゴやパッケージ、WEB キャンペーンなどをベースにしたブランドコミュニケーションを提案。加えて、海外では偏向報道によりネガティブイメージのある「ふかひれ」に関して、気仙沼では海洋資源を考え、を無駄なく全て活用している事実を伝えるキャンペーンを企画。



●八木澤商店（醤油製造／岩手県陸前高田市）

デザイナー：Thirada Raungpaka（タイ）、Mali Chaturachinda（タイ）、Pom Jitpratuk（タイ）

<デザイン課題>

約 200 年前より、こだわりの醤油や味噌を製造する老舗からの課題は、「海外での販売展開のコミュニケーション」と「今後予定しているパリでの展示会での展示方法」。

<課題への取り組み>

シンプルな原料から製造される醤油を、“アート”、“神秘”と捉えたブランドコミュニケーション案を提案。奇跡の一本松をイメージし、松の葉を筆にして書いた商品ロゴを制作したほか、海外の購買層を意識して麹の発酵プロセスをビジュアル化。



●Three Peaks（ワイン、りんごジュース製造／岩手県大船渡市）

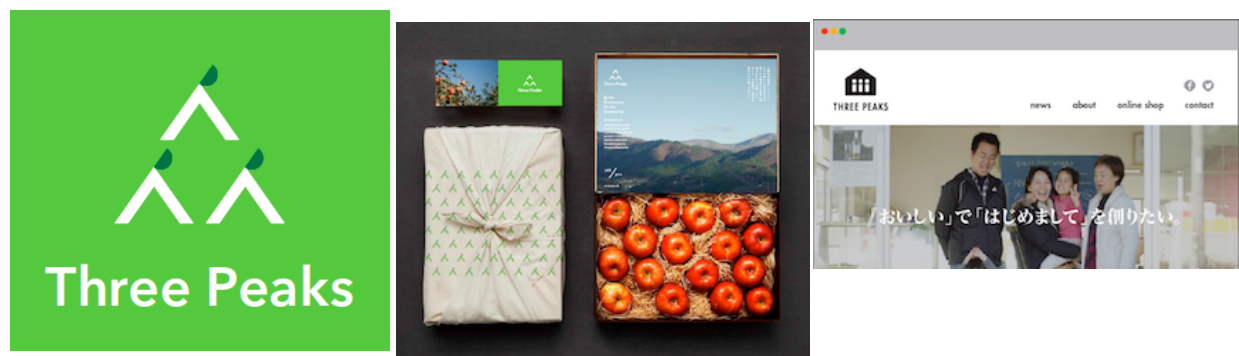
デザイナー：Driv Loo（マレーシア）、樽見星爾（日本）

<デザイン課題>

「三陸沿岸部にワイナリーを創り、100 年続く新しい文化を創造し、子どもたちに夢を与える事業を」と語る同社からの課題は、「ブランドロゴの統一」と「集客ストラテジーの提案」。

<課題への取り組み>

「出身地の三陸沿岸部、三陸地域を広く知ってもらいたい」との創業者の思いに沿って、新しいブランドイメージを創造するロゴデザインを作成。その他、キャッチコピーや、世界各国からワイン作りを手伝う人を受け入れるプログラム、ワインやりんごジュースなどのパッケージデザインなど、ブランドコミュニケーションを包括的に提案。



【「DOOR to ASIA」とは？】

異なる国や地域のデザイナーたちが一定期間ある地域に滞在し、地元事業者と行動を共にし、相互理解を深めながら、その企業や商品のための“コミュニケーションデザイン”を制作・提案するデザイナーズ・イン・レジデンス・プログラムです。

参加デザイナーにとっては、国の異なるデザイナー同士のつながりをつくるとともに、アジア各国の共通課題である”地域創生”や”自然災害”におけるデザインの役割を実践的に学ぶ機会を得ることができます。

地元事業者にとっては、自分たちの事業や商品の強みを再確認する機会になるとともに、世界各地に自分たちのことを深く理解してくれる仲間ができることで、これまでの延長線上にはなかった未来を想像することができます。

「DOOR to ASIA」はデザインを通じて、事業者とデザイナーとの間に小さくてもたしかな未来につながる“ドア”をひらくきっかけを提供していきます。

主催：独立行政法人 国際交流基金（The Japan Foundation）

運営：一般社団法人 つむぎや

プロジェクトメンバー：森孝幹（デザインフォース代表取締役・JPDA 国際交流担当理事）

矢部幹治（エージェント・ハムヤック株式会社代表）／樽見星爾（グラフィックデザイナー）新田理恵（{tabel}）／飯田麻衣（通訳）

【取材依頼／本プロジェクトに関するお問い合わせ】

一般社団法人 つむぎや（担当：友廣）

Tel: 090-6061-8129 /

E-mail: info@door-to.asia

[DOOR to ASIA]

公式 HP <http://door-to.asia/>

＊プログラム当日の様子や、制作したデザイン提案を随時公開中